

## 第6回学術集会準備状況

三重県立子ども心身発達医療センター 西村 淑子

第6回学術集会の進捗状況をご報告申し上げます。2026年2月6日より、演題募集および参加登録を開始いたしました。午前の教育講演では、平田仁先生に、「末梢神経損傷における神経発達段階の影響」についてご講演いただきます。昼には、ランチョンセミナーを2枠企画しております。ランチョンセミナーAでは、御勢真一先生に、「小児リハビリテーションにおけるDynamic Spinal Brace (DSB: プレーリーくん) の活用」についてご講演いただきます。ランチョンセミナーBでは、伊藤史人先生に、「視線入力を活用した『わかっていく!』『わかる!』へとつながる支援」についてご講演いただきます。ランチョンセミナーへの参加には、ホームページからのお申し込み(AまたはBの選択)が必要となります。お弁当をご用意しておりますので、ぜひご参加ください。午後のショート講演では、内多勝康様に、「難病や重度障害があっても活躍できる社会を目指してーウルトラ・ユニバーサル野球の挑戦ー」についてご講演いただきます。内多様は、重度障害児も参加できる野球大会の開催などに取り組まれている、元NHKアナウンサーとしても広く知られています。シンポジウムでは、「小児リハビリテーションにおけるメタバースの可能性」をテーマに、3名の先生方にご登壇いただきます。長谷井嬢先生には、「デジタル技術を用いた小児・AYA世代がん患者支援の実践と可能性」について、虎一真(星野うゑあ)様には、「外の世界と、希望でつながる。ー小児支援におけるメタバースという選択肢ー」について、長谷川陽子様には、「小児リハビリテーションにおけるメタバースの可能性ー『つながり』が拓く新たな社会参加ー」についてご講演いただきます。ホームページには、演者の先生方の抄録も掲載しております。小児リハビリテーションに関わる私たちにとって、新しい技術や知見を学ぶ貴重な機会になるものと確信しております。また、2026年11月5日・6日には、第71回全国肢体不自由児療育研究大会(全療研)が開催されます。本学術集会にご参加の皆様は、全療研にも無料でご参加いただけます。さらに、学会員の皆様にはオンデマンド配信もご視聴いただけます。会場参加が難しい方も、ぜひオンデマンド配信をご活用ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



## 施設紹介

心身障害児総合療育医療センター所長

小崎 慶介

理事長の小崎慶介です。施設紹介第1弾として、私の所属施設を紹介します。東京都板橋区小茂根にあり、その歴史は昭和17年(1942年)に東京帝国大学整形外科第2代教授高木憲次博士が、民間から集めた巨額の寄付を基に設立した日本初の肢体不自由児施設である「整肢療護園」に端を発しています。戦争に伴う国家総動員体制への対応から開園翌年に実質国有化され、3周年を迎える終戦直前に空襲によって壊滅的な被害を受けました。終戦後、高木博士をはじめとする関係者の尽力により、1951年に再建されましたが、施設自体は国有のままとされました。1962年肢体不自由児療育技術者養成所開設。1967年に重症心身障害児施設むらさき愛育園が、1979年に外来療育部がそれぞれ開設され、1980年に上記4施設が統合されて、国設民営の心身障害児総合医療療育センターとなり、現在に至っています。以下、統合された4部門について簡単に紹介します。

**整肢療護園**は、医療型障害児入所施設(旧肢体不自由児施設)であり、主として18歳未満の肢体不自由児・重症心身障害児を対象として、有期有目的入所による整形外科的手術、集中リハビリテーション医療、親子入園を行う他、短期入所あるいは長期入所により在宅障害児と家族の発達支援と生活支援を多角的に行なっています。

**むらさき愛育園**は、現状では療養介護(旧重症心身障害児施設)であり、18歳以上の重症心身障害者への長期入所支援を行っています。10名弱の利用者は開設時期以来60年弱にわたり継続的に入所しています。入所者の平均年齢は50歳代後半であり、最高齢は80歳を超えています。

**外来療育部門**は小児科、小児精神科、整形外科、リハビリテーション科、歯科の他、非常勤医師による専門外来が開設されています。児童発達支援事業と放課後等デイサービス事業も実施しています。特に放課後等デイサービス事業は、障害児の親子参加による運動を中心とする活動機会の提供を目指しており、いわゆる「預かり」とは異なる特色を有しています。

**療育研修所**では全国の医療型障害児施設、特別支援学校などに勤務する様々な職員を対象に年間30回程度の講習会を開催し、1500人程の受講があります。

さらに、当センターに隣接して1958年に創立された東京教育大学(現:筑波大学)附属桐が丘特別支援学校の施設併設学級が設置されており、入所児童は直接通学することが可能となっています。

以上、当センターは「医療・福祉と教育が統合された環境」にあると言えます。  
詳細は右QRコードに示されるウェブサイト  
(<https://www.ryouiku-net.com/>)をご覧ください。



## コラム「認定士・認定医資格取得のための教育講演」

副理事長 近藤和泉

現在、日本小児リハビリテーション医学会では、認定士・認定医制度の創設に向けた準備を進めております。認定資格の取得には、①所定の資格、②一定期間の学会在籍、③学術集会での発表実績等の要件を設ける予定です。このうち③の要件については、制度開始当初の経過措置として、学術集会における教育講演の受講をもって代替できる仕組みを設ける予定です。そのため、第6回日本小児リハビリテーション医学会学術集会より、認定士・認定医制度に対応した教育講演をプログラムに組み込むこととしております。

将来、小児リハビリテーション医学会認定士または認定医の取得をご検討されている方は、ぜひ本教育講演の受講をご検討ください。